

# 自分たちでまちを守る 15年続く防犯パトロール

新作第二自治会

毎週火曜午後8時、新8人程度が集まり、約40人参加というルール

作第二自治会（小林由夫会長）では防犯パトロールを行っている。2006年から継続し、今年で15年目。当番制ではな

く、「当日の都合がつく人が参加」というルールにすることで、息の長い活動として続いている。当初は週2回だったが、高齢化に伴い継続が困難になり、現在は週1回。

「苦勞様」と声を掛けられることも多い。

末長小の見守り活動も

同自治会では、末長小の登下校時の見守り活動も2006年から昨年10月まで行っていた。

始めたきっかけは、16年前に栃木県で起きた小学1年生の誘拐殺人事件。「地域の子どもは大人が守らなければいけない。この町内では絶対に事件を起こさせない」と小林会長は語気を強める。隊員の高齢化により現在はPTAに活動が引き継がれているが、体制を整えて再開することも視野に入れている。

「人材の層厚くしたい」

地域の防犯活動は自治会・町内会の大切な活動の一つ。だが、同自治会のように高齢化により活動が難しくなるケースも少なくない。「自治会にはいろいろな活動があるけ

ど、新たな参加者がいないと毎回固定されたメンバーになってしまう。交代できるように人材の層を厚くしていきたい」と話すのは次年度から会長を務める野秋康秀さん。

野秋さんはマンションの管理組合の自治会担当として、同自治会に8年前から参加。自治会に参加することで、今までは知らなかった地域の人たちと交流を持つようになった。「イベントのときは、とにかく人手が必要。まずはイベントに参加してみたい。それを機に顔なじみになって役員になる人もいます」と野秋さんは呼び掛ける。

小林会長は今年3月で14年務めた会長職を勇退する。子ども会の活動などを含め、自治会に30年以上携わった。「地道な活動だけど、誰かがやらなければいけないこと。子どもの喜ぶ顔が、何よりのやりがい」と笑顔を見せた。

このコーナーは、日常生活の中で、実は身近な町内会・自治会活動を紹介しています。加入などの問い合わせは事務局（高津区地域振興課）  
☎044・861・3144



新作第二自治会の防犯パトロール隊